

ばれっと

2010
9月
No.133

P2~3 **すぽっとらいと**

『定禅寺ストリートジャズフェスティバル
実行委員会』

街角から新しい音楽スタイルと文化の発信



今年で20周年を迎える定禅寺ストリートジャズフェスティバル。初秋の仙台を象徴する風物詩となった「市民のお祭り」は、市民による実行委員と多くの市民ボランティアが中心となり、企業や行政の協力も得ながら開催されています。

<目次>

-
- P4... **サポちゃん**と行く骨工口施設見学! のびすく泉中央の巻
 - ... **サポ本**を読もう! 『新1%の向こうに見えるまちづくり』
 - P5... 市民活動アワード エントリー開始
 - P6... サポセンカレンダー

すぽっとらいと

◆仙台市内で活動している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

街角から新しい音楽スタイルと文化の発信 定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会

「面白いからやってみよう・楽しもう」から始まった「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」（以下、JSF）も、今年で20周年を迎えました。市民による手作りのお祭りにこだわり運営してきたJSF実行委員会。今回は、実行委員長の佐々木和夫さんに団体の運営やJSFの楽しみ方についてお話しを伺いました。



▲実行委員長の
佐々木和夫さん

●市民による手作りのお祭り

JSFは、1991年に「街角」「屋外」「無料」を基本スタイルにして始まった音楽祭です。ストリートジャズとは19世紀にアメリカの街角で生まれたジャズの「自由な精神と表現」を受け継ぎ、ここ仙台・定禅寺の街角からあらゆるジャンルの音楽や文化が発信され続けるよう願ってつけた造語です。

今では、750組を超える出演グループと70万人以上の観客数を誇る日本最大の街角音楽祭として、初秋の仙台の風物詩となり、市民イベントとして定着しています。

そんなJSFも、立ち上げ当初はグループ数25組と小規模なスタートでした。立上げのきっかけは、街の活性化やシティーセールスが目的だったのではなく、「面白いからやってみよう」という気持ち、それだけだったそうです。

述べ70万人を越える大規模な音楽祭になった今でも、その気持ちは変わらず、実行委員会を動かしているのは、この「面白いからやってみよう・楽しもう」という心。自分達の手で「市民のお祭り」を作っているという充実感・達成感こそが一番の動機だと話されていました。

●東京に実行委員会の支部を設置

阪神淡路大震災の起こった1995年頃から、ボランティア精神が市民の皆さんの間に意識として高まってきたと感じているそうです。というのも、それ以来、JSFの活動に参加したいという市民の方々が飛躍的に増えたからです。最近では年間を通して参画する実行委員の数も70名程度となり、当日のボランティアの数も500名程度となっています。

またここ2、3年は首都圏からのボランティアの数も20~30人に増えたそうで、東京に実行委員会の支部を作り、ボランティアの受入れ体制強化を図っているそうです。

●運営は難しい、 だからこそやりがいがある

多くの実行委員やボランティアが参加するJSF。「活動を続けていく上で、一番大変なことは人の問題ではないでしょうか。いかに意欲を持った人に集まってもらうかにかかっている」と佐々木さん。

世代や経験の異なる大勢の人達が、JSFの運営に携わります。当然考え方も違いますし、意見のぶつかり合いも間々あります。意見が異なる人達とどういう風にも同じ目標に向かい、どうお祭りを成功させるかを考え、それぞれが自分の中で解決していく糸口を見つけていけるかどうかが重要です。JSFでは、役割ごとに3つに分けられた総務・運営・事業の各部会の中で、喧々囂々（けんけんごうごう）の検討・調整をし、利害関係者の合意を取り進めるそうです。

こういった苦勞の末にお祭りが成功すると、関わった人たちは、何とも言えない達成感を得るといいます。会社のようなピラミッド型の組織ではなかなか味わうことが難しい感覚ですね。



▲活動を支えているボランティアの皆さん

●多くの方の支えで運営されているJ S F

実行委員やボランティアだけでなく、行政や協賛企業、後援・協力団体、演奏するグループや観客の皆さんなど、本当に沢山の人の支えられてJ S Fは運営されています。その運営費も、参加するバンドの皆さんに、運営協力費として一定額を負担してもらったり、観客からのカンパ金やグッズ・飲料物などの売上金、パンフレット等の広告費用、メディアからの協賛金や仙台市の補助金などが主な財源となっています。

バブル景気の最終年となった1991年にスタートし、今年で20周年を迎えるJ S Fが、世間の経済状況にあまり大きく影響を受ける事無く活動を続けていくことが出来たのは、資金面においても、市民・企業・行政からの多様な支えがあったからだとと言えるでしょう。

●課題は次の世代への継承

「いつまでも、私のような年配者が活動できるわけでもないし、どう世代交代して受け継いでいくかということが課題ですね」と佐々木さん。

毎年、十数人の実行委員が入れ替わっていく中で、新しく入ってくる人達に「運営ノウハウ」や「思い」を受け継いでいかなくてはなりません。時代の変化とともに、新しいアイデアを出して、祭り自体を変えていってほしいという思いと、市民の手作りのお祭りとして、企業やプロに任せるのではなく、「自分達で考えて作り、やり切る」というコンセプトをこれからも大事にしてほしいという2つの思いがあるそうです。

「もしこのコンセプトを変えるのであれば、それはJ S Fではなく、全く新しいイベントとして立ち上げてほしい」との言葉に、佐々木さんのJ S Fへの思い入れが感じられます。

「街の中を使って市民が何かやろうと言い出してまだ20年。市民の力というのはもっといろんな方向で出てくるはずです。企業や行政だけでは決して考えつかないような、とてつもない力を持っているのです」。最後に、佐々木さんから、力強い言葉をいただきました。

★★取材を終えて

この20年、市民自らが「自分達の力」で作りに上げてきたJ S F。規模が大きくなっても、有名になり大きな経済効果を期待されたとしても、基本は「自分達が楽しむこと」を貫いてきました。だからこそ続いてきたのだと思います。多くの人達と共に歩むJ S Fのこれからの20年が更に楽しみです。

(担当：佐藤 秀之)

<団体情報>

定禅寺ストリートジャズフェスティバル
実行委員会

毎年9月の第2土・日曜と2日間に亘り、市民ボランティアが中心となって開催される無料の市民音楽祭「定禅寺ストリートジャズフェスティバル(J S F)」を主催している団体です。

J S Fの期間以外も年間を通し、数多くの共催・支援イベントに参画し、ノウハウの伝授などに積極的です。

■連絡先

〒980-0803

仙台市青葉区国分町3-8-3

新産業ビル304

TEL: 022-722-7382

FAX: 022-722-8461

E-mail: info@j-streetjazz.com

ホームページ <http://www.j-streetjazz.com>

<ミニ情報>

第20回
定禅寺ストリートジャズフェスティバル

- 日時 9月11日(土)、12日(日)
- ストリート演奏11:00~18:00 (一部21:00)
- ナイトステージ18:00~21:00
- ※前夜祭 9月10日(金) 18:30開演
- せんだいメディアテーク
- 1F オープンスクエア



▲今年の定禅寺ストリートジャズフェスティバル

実行委員長が教えるJ S Fの楽しみ方!

パンフを持って、おもいっきり仙台の街を歩いて楽しんでください。自分達の好きな音楽・好きなジャンルがきっと見つかります。

サポちゃんで行く **骨** プロ

『のびすく泉中央』の巻

仙台に情報の背骨を通すプロジェクト（通称：骨プロ）とは？

市民による情報の受発信を支援し、市民活動に関する情報を多くの市民に届けるため、サポセンを含め仙台市内の11の公共施設が協力して行うプロジェクトです。このコーナーでは、各施設で「骨プロ」がどのように活用されているかをご紹介します。

仙台市子育てふれあいプラザ のびすく泉中央
仙台市泉区泉中央1-8-6
仙台市泉図書館3F・4F
Tel:022-772-7340
Fax:022-375-0681

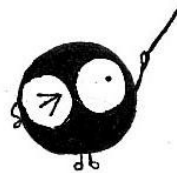
のびすく泉中央は、泉図書館のある建物の3階・4階にあります。3階には乳幼児親子向けに遊び場や一時預かりの機能があり、4階には中高生と子育て支援者の自主的な活動拠点としての機能があります。今回は、副館長の小川ゆみさんにお話を伺いました。

●市民目線での骨プロ活用

骨プロラックは、泉図書館のある1階に設置されています。建物に出入りする人全ての目につく1階に設置した方が、より市民のためになると考えたスタッフが、泉図書館に協力をお願いして実現したそうです。「多くの方がチラシを持っていくので、情報に関する市民のニーズを感じています」とは、スタッフの方のお話です。子育て支援関係のチラシについては、のびすく泉中央館内でも配布し、情報提供を行っています。

●県内でも珍しい中高生の拠点施設

のびすくは市内に三か所ありますが、中高生の居場所作りにも力を入れているのは、のびすく泉中央だけ。音楽に詳しいスタッフや様々な年齢層のスタッフを配置しているので、中高生が趣味や恋愛の相談などもしていくそうです。



▲人々が行きかう1階ホールに設置された骨プロラック (写真中央)

●地域で子どもを育てる

のびすく泉中央のイチオシは、「のびすく泉中央サポーターズバンク制度」です。子育て支援をしている個人・団体をサポーターズバンクに登録し、親子向けのイベントや講座を企画している人たちに紹介します。この取り組みを通して、地域の支援者と親子をつなぎ、親となった時に頼れる人や場所などの資源が、地域にはいっぱいある事を伝えています。

子育て奮闘中の方から子育てをお手伝いしたい方まで、子育てに関心のある皆さんは、ぜひ、のびすく泉中央を訪れてみてください。(担当：菊地 竜生)

今月のサポ本

『新1%の向こうに見えるまちづくり』

納税者が、納めた市民税の1%で自ら選んだ市民活動団体を支援する、いわゆる「1%支援制度」を、千葉県市川市が全国に先駆けて導入してから5年が経過しました。

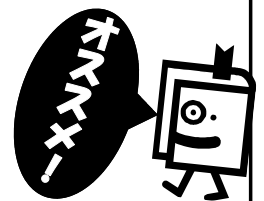
全国の注目を集めたこの制度は、市民活動を市民が支えること、税への関心を高めること、この両方の効果を狙ったものです。

多くの市民がまちづくりにかかわる仕組みはどのように作られていったのか。本書では、その詳細なプロセスが、実務に携わった行政職員の

立場から紹介されています。

また、制度実施後、どのようにまちや人々に変化をもたらしたのかについては、なかなか検証するのが難しいとしながらも、市民活動に対する市民の関心が少しずつ高まっている様子が、インタビューやエピソードを交えながら具体的に示されています。

私たちのまちは私たち自身で支えていきたい。本書は、そんな思いを持つ全ての皆さんに、参考になる一冊です。(担当：小松 州子)



編著：市川市1%支援制度記録チーム

発行：ぎょうせい
定価：1,800円(税込)

■この本は「E まちづくり」にあります。

新規事業紹介

市民活動アワード

市民活動団体や、社会貢献活動を行っている企業から、活動を通じて地域や社会にどのような変化をもたらしたか具体的なエピソードを募集し、表彰する「市民活動アワード」を開催します。

今回は、サポートセンター初の試みとなるこの「市民活動アワード」について、たっぷり紹介します。

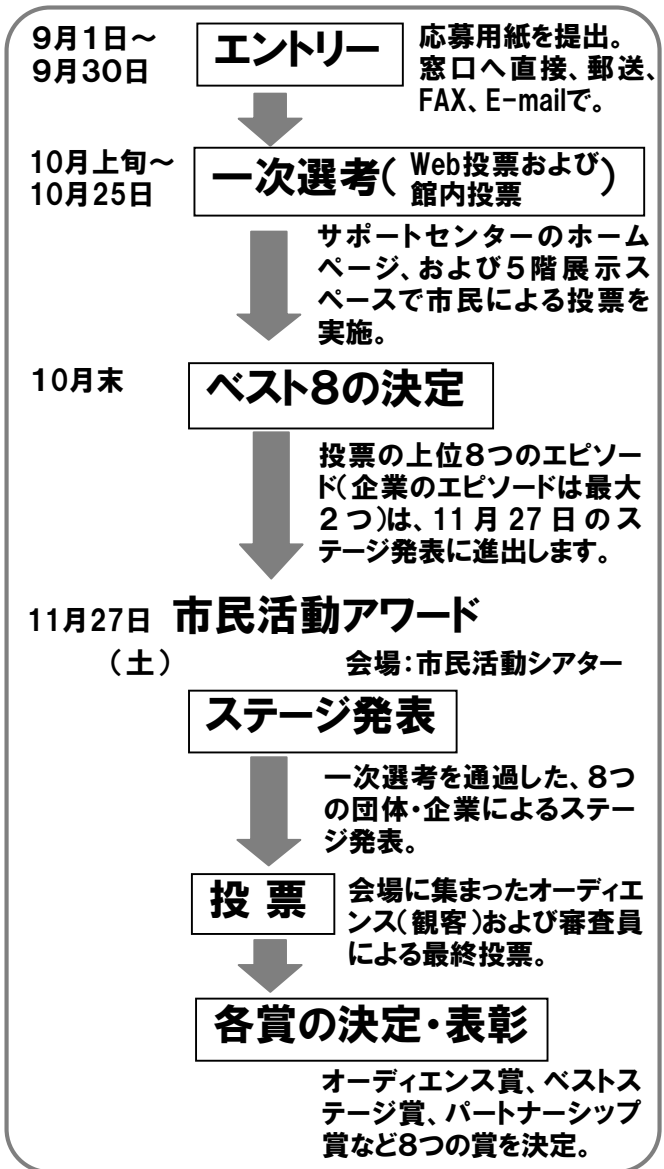
●地域や社会を変えたエピソードを募集！

様々な市民活動や企業の社会貢献活動により、私たちの住む街は日々変化していますが、その変化を感じる機会は、あまり多くはありません。

そこで、市民活動サポートセンターでは、市民活動や企業の社会貢献活動により、地域や社会に起こった変化を紹介し、表彰する「市民活動アワード」を開催することにしました。

例えば、「障がいのある人たちでも楽しめる音楽祭を開催したことがきっかけで、市内で手話通訳のつくコンサートが多く開催されるようになった」とか、「会社をあげて、地域のゴミ拾いを行ったら、ポイ捨てをする社員が少なくなった」など、活動を通じて起きた地域や社会の変化に関するエピソードを募集し、市民の皆さんへ紹介していこうと考えています。

応募されたエピソードは、「市民活動・社会貢献活動エピソード集」として発行する予定です。また、市民の皆さんの投票によりベスト8に選ばれたエピソードについては、11月27日（土）にステージ発表を行い、会場に集まったオーディエンス（観客）および審査員による最終投票で、8つの賞を決定・表彰します。



お知らせ ●○○●

市民活動アワード エピソード募集開始！！

■応募方法

所定の応募用紙に必要事項を記入し、窓口へ直接、または郵送、FAX、E-mailで提出。

■応募期間 9月1日～9月30日
※応募資格などについては、チラシまたはサポートセンターのホームページでご確認ください。

アワード受賞エピソードにはこんな特典が！

■受賞エピソードを、サポートセンターの展示スペース、ホームページ、およびサポートセンター通信「ぱれっと」で紹介。みんなに活動をPRできるチャンスです！！

■その他、各賞個別の特典も用意！

(例)

オーディエンス賞：

サポートセンターのお好きな貸室（市民活動シアターを含む）を1室1回（最大1日）無料で使えます。

■問い合わせ・申し込み先

仙台市市民活動サポートセンター
TEL 212-3010 FAX 268-4042
E-mail sendai@sapo-sen.jp

9月～サポセンカレンダー ●○○● <申込み> TEL 022-212-3010

日時	イベント内容	会場	料金
9月15日(水) 14:00～17:00	○NPOマネジメント相談 活動に関する相談はもちろん、団体の運営に関する経営的な相談に個別対応します。 相談員：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター 常務理事・事務局長 紅邑 晶子さん	研修室1 (3F)	無料 (事前申込必要)
9月18日(土) 14:30～16:00	○NPOいろは塾 「地域の役に立つ活動を始めたい!」「新聞やテレビでよく耳にするNPOって何だろう?」そんな皆さんにオススメの講座です。NPOの基礎について、90分でわかりやすく学びます。 塾長：仙台市市民活動サポートセンター 市民活動アドバイザー 高橋 陽佑	研修室5 (4F)	500円 (事前申込必要)
9月21日(火) 14:00～16:00	○こらぼん協働相談所 行政と市民活動団体・NPOの協働について相談を受け付けます。1団体1時間程度。 相談員：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター 常務理事・事務局長 紅邑 晶子さん ※仙台市市民協働推進課の職員、仙台市市民活動サポートセンターのスタッフも同席して相談に対応します。	研修室1 (3F)	無料 (事前申込必要)

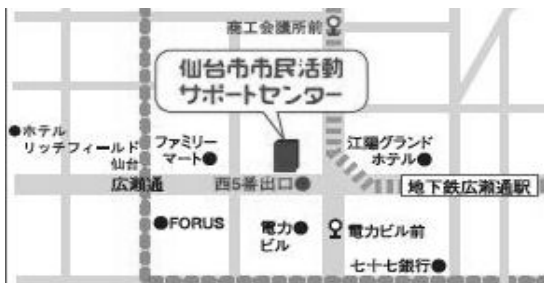
仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ < 申込み・問合せ > TEL 022-217-3983
仙台市シニア活動支援センター (サポセン3階)

日時	イベント内容	会場	料金
10月9日(土) 10:00～17:00	◆専門相談(先着5人/一組50分程度) 生活習慣の改善に成功した方や、その経験を活かしたい方、健康増進の活動に参加してみませんか? 専門相談員：特定非営利活動法人生活習慣改善センター (市民がひらく糖尿病教室) 代表 富澤 伊勢雄さん	研修室1 (3F)	無料 (事前申込必要)

■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でお来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前
[地下鉄]広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

■ 開館時間

○平日 午前9時～午後10時

○日曜・祝日 午前9時～午後6時

■ 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

9/29

■ 編集後記

◆この夏、サポセンは1階のレイアウトを変更しました。スタッフもやっと慣れてきたところです。どう変わったのかは来てのお楽しみ。皆様のご来館をお待ちしております。(菅野)
◆いよいよイベントの秋の到来です。定禅寺ストリートジャズフェスティバルを筆頭に、仙台には市民の手作りイベントが盛りだくさん。皆さんも出かけてみませんか?(太田)

発行:仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日:2010年9月7日

編集:特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人:菅野祥子 太田貴

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間:2010年4月1日～2015年3月31日]